



東白川小だより

令和5年 11月 21日(火) №9

教務主任 渡辺 仁

さらに「しっかり学び、しっかり育つ 元気な東っ子」へ

～全国学力・学習状況調査及びそれに関わる質問紙調査の結果より～



今年度4月18日に全国学力学習状況調査（国語・算数の2教科と質問紙調査）が行われ、6年生がこの調査を受けました。この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」とあります。そこで、毎年調査結果を分析し、今後の指導改善に活かすことにしています。この結果は6年生の4月時の姿が反映されたものですが、ここ数年の調査結果と比較しながら、東白川の教育の在り方を考える貴重な資料として活用していきます。

6年生の学力調査の結果、「国語は全国の平均正答率をやや上回り、算数は全国の平均正答率とほぼ同じで、ともに無回答率は少ない。」ということでした。また、質問紙調査においては、「自分には、よいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」「今、住んでいる地域の行事に参加しているか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」との問いに対し、「当てはまる」という回答が、全国平均、岐阜県平均よりかなり高い傾向が見られました。以下に、分析結果の一例をあげますのでご参照ください。

今後、学校・家庭・地域との連携を大切に、子どもたちのよさを認め励まし、将来の夢や目標に向かってたくましく生きていく児童の育成に取り組んでいきますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いします。



【○●：結果 →：結果の考察 ◇：今後の対応】

1. 国語の結果より

○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力は高い。

→授業で、筆者や主人公の思いや考えを読み取り、ノートやプリントに記述する活動を多く取り入れている。また、その内容を学級で発表し、仲間や教師に認められていることが、書くことへの抵抗感を少なくしていると考え。

◇タブレットを活用し、より効果的に発表するなど、多様な表現活動を積極的に取り入れたい。

○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる力は高い。

→校外学習や社会見学等において、事前に質問したいことを考え、聞いたことを要約してメモをとるなどの活動を低学年から続けていることもよい影響を与えていると考え。

◇対話の中でキーワードを見付け、さらに掘り下げて質問したり、思考したりする活動を取り入れていきたい。

- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力は弱い。
 - 相手の考えを受け止めるまでで思考が止まり、「なぜ?」「自分とはここが違うけど」という気付きが弱い。また、気付いても、それについて質問することが少なく、「いいです。」「わかりました。」で終わらせてしまう傾向があるためと考える。
 - ◇対話的な活動を充実させ、より探究していく授業のあり方を考え、実践する。質問や反対意見はよりよいものを追究したり、深い学びにつながるという意識を高めたりするなどの活動をしたい。
- 日常よく使われる敬語の理解力は弱い。
 - 場に応じた言葉遣い等は、職員室での入室・会話等で、高学年になるほどこだわっているが、日常会話でなかなか敬語に触れる機会が減少しているためと考える。
 - ◇敬語を使うべき場を想定し、敬語のもつ意味や、相手を敬う大切さについて、指導する機会を増やしたい。

【国語の全般的な強化対策】

情報の扱い方については「関係の理解」「整理の仕方」、まとめかたについては、「視点の明確化」「書きまとめ方」の指導・支援に力を入れる。そして、「知識」「技能」と「思考力」「判断力」「表現力」等をつなぎ、国語力を高めていく。



2. 算数の結果より

- （ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る力は高い。
 - 立式のしかたや、なぜそうすべきなのかを繰り返し確認することで、正しい立式ができたり、式の意味を理解したりできるようになっていると考える。
 - ◇立式をする際、ただなんとなく数字や符号を並べるのではなく、数直線図や表、絵などを用いて、視覚的にも思考しやすい方法も継続して行っていく。
- 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる力は高い。
 - グラフの表題やグラフの縦軸と横軸のメモリ、単位等を正しく読み取り、それぞれのグラフが何を示しているのかを確認してから問題を解くように指導しているからだと考える。
 - ◇理科や社会科、家庭科、総合的な学習等の授業でも、算数の学習と結び付けながらデータを有的に扱って学習していく。
- 正方形・正三角形・台形等の意味や性質についての理解力は弱い。
 - 図形としての形は理解しているものの、意味や性質について、深く追究する学習が定着していないと考える。
 - ◇日常で、どんなところにこれらの形が用いられ、有益に活用されているのか、実生活や実体験と結び付けて思考を高めることを取り入れていきたい。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力は弱い。
 - なんとなく、「こうすればよい」というイメージはあっても、それを順序立てて、相手に伝えることに対しての苦手意識があると考ええる。

◇証明問題等でその力を高めたい。そのために、段階に応じた支援が必要である。例えば、穴埋めヒントカードを用いたり、数値をかえて臨機応変に説明できるようにしたりするなどの活動等を取り入れていく。

【算数の全般的な強化対策】

ねらいに応じて、実生活に結び付けながら、ワクワク感をもって学べる授業展開を实践する。また、「根拠」「解釈」「統合」「発展」の4つの視点を意識し、数学的学び方をすることにより、答えが出たら満足ではなく、多様な見方・考え方ができる児童を育成していく。



3. 児童生徒質問紙の結果より

- 「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」といった前向きな意識は高い。
→自己肯定感・有用感といった意識は高い。普段から家族や仲間、教職員、地域の方々と温かい関りができているからと考える。
- ◇「当てはまる」100%をめざしたい。そのために、家庭・学校・地域が協力して、活動の場や認め合いの場をもち、児童の健やかな育成に努めたい。
- 「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」といった地域に対する意識の評価は高い。
→東白川を愛する意識がとても高く、自分も地域の一員として力になりたいという思いが普段の生活で培われている。それは、「ふるさと学習」をはじめ、地域の方の温かい協力のもと、地域学習が進められていることも大きな要因と考える。
- ◇今後も、将来、何らかの形で村を支えたり、村を活性化させたりする意識を持ち続けさせたい。これまでの村の歴史はどうであったのか、今後どんな村になっていってほしいのか、地域の方は何を望んでいるのか、自分には何ができるのかなど、「ふるさと学習」等を通して、学び考える時間を設けたい。コミュニティースクールの活用も継続して行っていきたい。
- 「将来の夢や希望をもっている」とははっきり言える児童はやや少なめである。
→様々な情報が入手しやすい状況だが、その中で自分のやりたいことや就きたい職業を選ぶというには、まだまだ学習や経験が少ないと言える。村内でできる仕事や趣味、スポーツ等も限られており、はっきりしないのも当然であると考え。
- ◇「ない」ではなく、「あれもこれも挑戦したい」「自分の可能性を試してみたい」という意識はもたせていきたい。そのために、社会の様々な出来事に興味・関心をもてるような情報発信が必要である。また、体験学習や社会見学も積極的に行いたい。小中で連携したキャリア教育も進めたい。



【質問紙調査の全般的な活用】

「当てはまる」と回答した児童は、継続・さらなる向上をめざす。また、「どちらかといえば当てはまる」「どちらかという当てはまらない」と回答した児童は、今後「当てはまる」と回答できるよう、意識の向上を図りたい。一方、「当てはまらない」と回答した児童に対しては、少しでも気持ちや考えが変化するように働きかける。そして、「当てはまる」が100%に近づけるよう、具体的な数値目標を設定し、そのために必要な手立てを考え、実施していく。